

ARCLE について

ARCLE の理念

これからの英語教育のグランドデザイン (ECF=English Curriculum Framework) に基づいて、幼児から成人まで一貫した英語教育を実現するための実証的な言語教育研究を推進し、発信していく。

- ① ARCLEの概要, 研究員一覧, 2008年度活動報告 150
- ② 研究紀要執筆要領 152

ARCLE の概要, 研究員一覧, 2008 年度活動報告

1. ARCLE の概要

正式名称 Action Research Center for Language Education
 (ARCLE / アークル)
事務局 (株)ベネッセコーポレーション内

2. 研究員一覧(五十音順, 敬称略) ※所属・肩書きは刊行時のもの

研究理事 アレン玉井光江(千葉大学教授)
 金森強(松山大学教授)
 田中茂範(慶應義塾大学教授)
 根岸雅史(東京外国語大学教授)
 吉田研作(上智大学教授)

研究員 長沼君主(東京外国語大学講師)
 杓澤糸((株)ベネッセコーポレーション)
 初海真理子((株)ベネッセコーポレーション)
 福本優美子((株)ベネッセコーポレーション)
 森下みゆき((株)ベネッセコーポレーション)
 吉池陽子((株)ベネッセコーポレーション)

3. 2008 年度活動報告 ※所属は発表当時のもの

学会発表 日本児童英語教育学会 第 29 回全国大会(2008 年 6 月)
 「小学生以前の英語学習の持つ高校時における情意的効果の探索
 的研究」
 長沼君主(東京外国語大学)
 森下みゆき((株)ベネッセコーポレーション)

シンポジウム・
講演・研修等

上智大学・ARCLE 応用言語学シンポジウム(2008年11月)*共催

吉田研作(上智大学)

根岸雅史(東京外国語大学)

田中茂範(慶應義塾大学)

アレン玉井光江(千葉大学)

金森強(松山大学)

長沼君主(東京外国語大学)

吉池陽子((株)ベネッセコーポレーション)

NHK放送文化研究所 2009年春の研究発表・シンポジウム(2009年3月)

ワークショップ「学校と家庭・学習とメディア利用の可能性～小学校英語の事例から考える～」

沓澤糸((株)ベネッセコーポレーション)

研究紀要執筆要領

1. 形式

- (1) 基本は日本語とする (Abstract, Keywords は英語)
- (2) 横書きで, ワードプロセッサの Word で作成
- (3) B5版, 余白は, 上下 20mm, 左右 25mm
1 ページあたり 39 行, 1 行あたり, 日本語は概ね 40 字, 英語は 80 字
10~15 ページ程度 (注・参考文献・グラフ・図表・数表等を含む)
- (4) グラフ・図表・数表は, 原稿本文中に入れ込む

2. 構成

*① ⇒ ⑦ の順

- ① 題目 (日・英)
原稿の 1 ページ目の最初に, 日本語と英語の順
- ② 氏名 (日・英)
日本語表記の下に英語表記
- ③ 所属機関 (日・英)
日本語表記の下に英語表記をイタリック体で表記
- ④ Abstract (英)
200 words 程度で, 英語で Abstract を入れる
- ⑤ Keywords (英)
Abstract の次に 1 行あけて, 論文のキーワードを 3~5 つ程度, 英語で入れる
- ⑥ 本文
・Keywords の次に 1 行あけて, 本文を書き始める
・小見出しには通し番号をつけ, ゴシック体を用い, 前後に 1 行の空白を設ける
・和文の場合, 句読点は「, 。」, カギ括弧は「」を使用
- ⑦ 注, 参考文献等
Publication Manual of the American Psychological Association
(American Psychological Association, 2001) などに準拠